

大雪山国立公園関連年表

| | | 国立公園施策、自然環境関係事項等 | 社会情勢等 |
|------|-----|--|---|
| 1931 | 昭6 | 国立公園法制定 | |
| 1932 | 昭7 | 国立公園委員会で大雪山を含む全国12候補地を選定 | |
| 1933 | 昭8 | 内務省が国立公園候補地調査 | 高谷隆蔵が幌加温泉を開業 |
| 1934 | 昭9 | 国立公園指定(12月4日告示) | |
| 1936 | 昭11 | 新得町が初めてトムラウシ山系を総合調査 | 松山温泉を天人峡温泉に改名 |
| 1937 | 昭12 | 内務省が大雪山国立公園調査 | |
| 1938 | 昭13 | 厚生省設置(国立公園行政は体力局所管) 特別地域の指定 | |
| 1940 | 昭15 | 層雲峡温泉街を集団施設地区に指定 | 冬季オリンピック滑降、回転競技コースに愛山溪に近い永山岳北斜面が選ばれたが、戦争のため中止 道景勝地協会がヒサゴ沼避難小屋を建設 |
| 1942 | 昭17 | ミュビゲラを井上元則博士が十勝三股の原生林で発見(翌年新種と同定) | ルベシベ線(後の大雪国道39号線)着工 |
| 1943 | 昭18 | | 東川遊水池着工(戦時中の工事で中国人、朝鮮人88人が死亡。7年がかかりで完成) |
| 1945 | 昭20 | | 上川、東川、富良野、新得などの山間部に空襲被災者、外地引揚者らが緊急入植 |
| 1947 | 昭22 | 厚生省に国立公園部新設 | |
| 1948 | 昭23 | 山ろく市町村が参加した大雪山観光連盟が発足 | |
| 1949 | 昭24 | 北大農学部 館脇操教授、「大雪山の植物」を刊行 | |
| 1950 | 昭25 | 北大地質鉱物教室グループが3年間にわたる地質火山共同調査スタート | 美瑛町白銀の温泉ボーリング成功。町営白金旅館開業 上川村営愛山溪倶楽部設置(翌26年から営業) |
| 1951 | 昭26 | | 上川町一層雲峡間に冬期間のバス便が運行される |
| 1952 | 昭27 | 石狩川源流原生林総合調査始まる | 北電層雲峡発電所建設 |
| 1953 | 昭28 | 国立公園管理員制度発足 | 愛山溪(八島屋根)にて春山雪崩のため6人が死亡 |
| 1954 | 昭29 | 層雲峡集団施設地区の指定 大雪山国立公園の初代レンジャー(富永有)着任 上川町営朝陽荘内に層雲峡管理員事務所開設 | 第9回国体山岳競技会場で大雪縦走路が選ばれ、忠別、白雲両石室が建てられる 赤岳観光道路が着工される 9月26日、15号台風(洞爺丸台風)が北海道を直撃 |
| 1955 | 昭30 | | 十勝岳白金ゲレンデ開設 糠平発電所が完工、糠平湖誕生 |
| 1956 | 昭31 | | 大雪国道石北峠開通 |
| 1957 | 昭32 | 自然公園法公布(国立公園法廃止) | |

大雪山国立公園関連年表

| | | 国立公園施策、自然環境関係事項等 | 社会情勢等 |
|------|-----|---|--|
| 1958 | 昭33 | | 大雪縦貫道(道道忠別・清水線)の現地調査始まる |
| 1959 | 昭34 | | 赤岳観光道路、1,300m地点まで全通し、観光バスが運行 十勝岳温泉が発見される(開業は38年) |
| 1960 | 昭35 | 層雲峡一帯にネズミ駆除のためホンドイタチが放逐される | 「裏大雪」の名を「東大雪」と呼びかえる 層雲峡に上川町立層雲峡博物館、勇駒別に北海道学芸大旭川分校大雪山自然科学研究施設、糠平に帯広畜産大糠平生物研究所がそれぞれ開設 上川営林署から大雪営林署が分離独立 道立地下資源調査所が大雪山系初の地質図「上川町」を作製 |
| 1961 | 昭36 | 然別湖でオショロコマの人工ふ化事業を開始 | |
| 1962 | 昭37 | 6月29日、十勝岳が爆発し、火口近くでイオウ採掘の磯部鉱業所宿舍の5人が死亡 | |
| 1963 | 昭38 | | 1月1日、北海道学芸大函館分校山岳部の11人パーティーが旭岳中腹で遭難、10人死亡 上川町ヤンベタツブに高原温泉開業 国立公園記念切手を発行(5円が然別湖、10円が黒岳) |
| 1964 | 昭39 | 北大低温研グループの雪渓、構造土調査始まる | 旭川地方気象台十勝岳火山観測所が白金温泉に開設 |
| 1965 | 昭40 | 勇駒別集団施設地区の指定 高山チョウのウスバキチョウ、ダイセツ効ネヒカゲ、アサヒウモン、鳥のクマケラが天然記念物指定を受ける | |
| 1967 | 昭42 | カラフトリジミが天然記念物に追加指定 | 赤岳－旭岳－勇駒別の旭川大雪山層雲峡線のうち勇駒別－銀泉台間は中止と決定 糠平－然別間のパルススカイライン開通 黒岳五合目と層雲峡を結ぶ層雲峡ロープウェイ開業 上川町に大雪山愛護少年団が結成(東川町でも43年に結成) |
| 1968 | 昭43 | 糠平集団施設地区の指定 然別湖のオショロコマ(ミヤベイワナ)北海道天然記念物に指定 | 旭岳ロープウェイ全線開通 天皇、皇后両陛下が層雲峡にご宿泊 大雪ダム(ロックフィル式多目的)着工 道立地下資源調査所が上川町白水沢に地熱ボーリング |
| 1970 | 昭45 | | 上士幌町ひがし大雪博物館開館 |

大雪山国立公園関連年表

| | | 国立公園施策、自然環境関係事項等 | 社会情勢等 |
|------|-----|--|---|
| 1971 | 昭46 | 環境庁設置(国立公園行政は自然保護局所管) | 大雪縦貫道(道道忠別・清水線)計画が開発道路として指定を受ける。道自然保護協会が反対意見書提出 |
| | | 特別保護地区の指定 | 上川と十勝をつなぐ三国トンネル完工(国道273号線が47年に開通) |
| | | 特別地域の一部変更 | |
| | | 指定湖沼の指定(ヒサゴ沼、沼ノ原大沼、硫黄沼、姿見の池) | |
| | | 山頂部と層雲峡の一部を天然記念物に指定(4月) | |
| | | 大石環境庁長官、尾瀬観光道路の中断に続いて、大雪縦貫道着工の保留を決定 | |
| 1972 | 昭47 | 勇駒別管理員事務所開設(国立公園レンジャー配置) | 十勝ダム着工 11月21日、北大山スキー一部6人パーティー、旭岳盤の沢でビバーク中、融雪雪崩に遭い5人死亡 道開発庁は高山帯をトンネルでぐる大雪縦貫道新ルート案を発表 |
| | | | |
| | | | |
| 1973 | 昭48 | 旭川営林局の石狩川源流森林総合調査始まる | 大雪縦貫道計画凍結 |
| 1974 | 昭49 | 白金野鳥の森開設 | |
| 1975 | 昭50 | | 大雪ダム完成 6号台風により層雲峡のホテル宿舍崩壊、6人死亡 |
| | | | |
| 1976 | 昭51 | クリーン大雪運動スタート | 上川町の大規模畜産基地にカナダ産の肉用牛が導入され商品名「大雪アングス牛」と命名 |
| 1977 | 昭52 | 十勝川源流部原生自然環境保全地域の指定(国立公園区域から削除) | |
| | | 国立公園レンジャー(管理員)が十勝川糠平温泉に配置され、層雲峡、勇駒別と合わせ3人体制となる | |
| | | 天然記念物区域が特別天然記念物に昇格 | |
| 1978 | 昭53 | | 国鉄士幌線糠平・十勝三股間を代行バスに切替 |
| 1980 | 昭55 | | 天人峡で土砂崩れ(道道とホテルの一部を破壊、負傷者4名) |
| 1981 | 昭56 | 東川町の大雪山自然観察講座始まる | |
| | | 高原温泉高原沼めぐり登山歩道がヒグマ出没のため閉鎖 | |
| 1982 | 昭57 | | ヒサゴ沼避難小屋が再建される |
| 1983 | 昭58 | | 旭岳ビジターセンター開館 |
| 1984 | 昭59 | 大雪山国立公園指定50周年記念式典 | 黒岳が標高年(西暦と標高が一致)となり賑わう |
| 1987 | 昭62 | 「上川・層雲峡圏プラン65基本構想」策定 | 国鉄士幌線廃止 |
| 1988 | 昭63 | 十勝岳噴火(12月、平成元年3月に終息) | |

大雪山国立公園関連年表

| | | 国立公園施策、自然環境関係事項等 | 社会情勢等 |
|------|-----|--|------------------------------|
| 1989 | 平元 | 大雪山国立公園層雲峡・旭岳地区ボランティアレンジャー連絡会発足 | |
| 1990 | 平2 | | 層雲峡商店街地区プラン65実行委員会発足 |
| 1992 | 平4 | 大雪山国立公園東大雪・十勝連邦地区ボランティアレンジャー連絡会発足 | |
| 1993 | 平5 | 管理計画の作成検討(～平8) | |
| | | 両ボランティアレンジャー連絡会が統合され大雪山国立公園パークボランティア連絡会と改称 | |
| | | 国設大雪山鳥獣保護区管理棟(ヒグマ情報センター)開設 | |
| 1994 | 平6 | 管理官事務所の名称を変更(層雲峡→上川、勇駒別→東川、糠平→上士幌) | |
| 1995 | 平7 | 国立公園計画の再検討、十勝三股地区を集団施設地区に指定 | |
| 1996 | 平8 | | ナキウサギ裁判始まる |
| | | | 大雪山国立公園研究者ネットワーク設立 |
| 1999 | 平11 | 十勝三股ふれあい自然塾整備運営基本構想策定 | 北海道が「時のアセス」により士幌高原道路の建設計画を中止 |
| | | | 上川町層雲峡・表出協定締結 |
| | | | 知事が層雲峡地区を広告景観奨励に指定 |
| 2000 | 平12 | 管理官事務所が自然保護官事務所に改組 | 地方分権一括法の施行により機関委任事務が廃止 |
| | | | 層雲峡ビジターセンター開館 |
| 2001 | 平13 | 環境省設置(国立公園行政は自然環境局所管) | |
| 2002 | 平14 | 国立公園計画の点検(変更なし) | |
| 2003 | 平15 | 北海道自然歩道の計画決定 | |
| 2004 | 平16 | 大雪山国立公園指定70周年記念シンポジウム | |
| 2005 | 平17 | 層雲峡集団施設地区及び糠平集団施設地区について整備方針策定検討会設置 | |

参考文献：大雪山物語(北海道新聞社編)
 大雪山 パークボランティア10年の歩み
 「国立公園」628号(特集：指定70周年を迎えた国立公園)
 旭川山岳会会報・創立70周年記念
 上川町開基100年記念誌(上川町)